



地域農業育成室・産地戦略推進室 〒790-8502 松山市北持田町 132 番地

tel (089) 909-8762 (地域)

(089) 909-8763 (産地)

伊予農業指導班

〒799-3122 伊予市市場 127 番地 1

tel (089) 982-0477

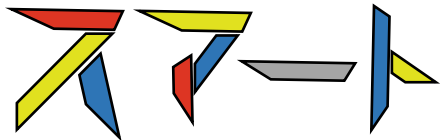
愛媛県 HP でも

久万高原農業指導班

〒791-1202 上浮穴郡久万高原町入野 263 番地

tel (0892) 21-0314

閲覧できます→



## 農業に取り組んでみませんか？

スマート農業 … 「ロボット、AI、IoT 等の先端技術を活用する農業」のこと。  
省力化やデータを活用した生産の安定化が期待できます！



### かんきつ 基盤整備園地でスマート農機を実演

松山市下難波地区のかんきつ基盤整備園地で、スマート農機実演会を開催しました。農家や関係機関職員 46 名が参加し、愛媛大学が開発中の傾斜地でも荷台を自動で水平に保つ電動運搬台車とリモコン草刈り機の操縦を体験しました。

～農家の声～

今まで汗だくになっていたのにゲーム感覚で草刈りができる！



電動運搬台車によるかんきつの運搬

### ドローン施肥により労力を軽減

松山市興居島地区の伊予柑園でドローンによる施肥の実演会を開催し、若手女性農業者組織「しとらす」のメンバーら 17 名が参加しました。

～農家の声～

急傾斜地が多い園地で、重たい肥料を運ぶことなく、楽に施肥作業ができる！

| ドローン施肥の所要時間 |      |
|-------------|------|
| 散布          | 約20秒 |
| 往復(運搬)      | 約3分  |

※肥料 20kg を散布した時間。

使用した機種：DIJ 製 AGRAS T25



ドローンによる施肥



### 野菜 モニタリング機器による環境データの活用

若手いちご農家を対象に、データの収集と活用等の勉強会を開催しています。松山市及び東温市の農家 6 戸に機器を設置し、気温・CO<sub>2</sub>濃度等を測定・分析することで、高品質安定生産を目指しています。また、コスト削減のため、県指導のもと、農家自身が環境計測器を製作し、実用性等について検証しています。

～農家の声～

データ分析することで、生育ステージごとの最適管理に努めたい！



環境データについて情報共有



低コスト環境計測器



### スマート田植機で省力化と効率化を推進

伊予市下三谷地区で直進アシスト機能付可変施肥田植機による「ひめの凜」の田植えを実演しました。農家や関係機関職員 38 名が参加し、作業負担の軽減等について活発に意見交換が行われました。

今後、大規模農家等におけるスマート技術の導入を啓発・推進していきます。

～農家の声～

ハンドルから手を放しても直進してくれるので作業の負担が少ない！



スマート田植機による実演



直進アシスト機能付きで真っすぐ田植えが可能！

## ユーカリ産地振興の取組みが 「全国農業改良普及支援協会長賞」を受賞！（地域農業育成室）

「第12回農業普及活動高度化全国研究大会」において、県代表として発表した「日本一を目指したユーカリ産地の振興～”強み”を活かし、”弱み”を克服！産地強化を普及がサポート～」と題した普及活動の取組みが評価されました。

中予地域のユーカリ産地では、令和元年頃から発生した原因不明の株枯れ症状に起因した苗木供給量の不足や生産意欲の低下により、栽培面積や生産量が伸び悩んでいました。そこで、市、JA、研究機関と連携しながら、株枯れ症状の原因究明や苗木供給体制の構築、販売促進等に取り組んだ結果、令和5年には生産量172万本、生産額1億5,600万円、生産者144人と産地が拡大しました。

今後も、農業産地に寄り添った普及指導活動を通して、儲かる農業の実現と産地の更なる発展に努めてまいります。



生産拡大を目指すユーカリ農家



表彰式



## 新規就農者の確保と定着に向けて（伊予農業指導班）

農業者の高齢化が進む中、地域の核となる担い手の確保と定着は喫緊の課題となっており、県、市、JAがワンフロアとなっている“強み”を活かし、就農支援に取り組んでいます。

就農希望者の確保に向けては、就農に興味のある方向けの野菜づくり勉強会や、伊予農業高校生を対象とした生産者との就農啓発交流会で愛媛農業の魅力等を発信しました。また、スムーズな就農に向け、補助事業や資金活用による機械や施設の設備、優良農地の確保等を支援しています。

就農後は、定期的に現地巡回指導や面談を行い、早期経営安定と定着を目指しています。

今後もこうした活動を継続するとともに、地域で就農希望者を受け入れ、育成できるような体制を整備することで、就農者の増加を図っていきます。



野菜づくり勉強会



新規就農者のほ場で苗木の管理指導



就農啓発交流会